‘１８　後志イベントめぐり情報　特別号

祝日本一

国土交通大臣表彰

手づくり郷土(ふるさと)賞　大賞受賞！
大賞部門　グランプリ獲得！！

小樽雪あかりの路実行委員会

皆さんは「手づくり郷土(ふるさと)賞」って御存知ですか？

国土交通省が所管する社会資本(道路や、港、公園、街並みなど)を積極的に活用し、地域の魅力や個性を生み出す活動を行っている団体の御努力を表彰するものです。

昭和６１(‘86)年度に創設され、今年度で３３回目を迎えたこの表彰は、一般部門と大賞部門の２部門制で、一般部門を受賞後、活動が継続し、なお一層内容が充実し、他地域のお手本となりうる活動のみが大賞を受賞されます。

平成３０(‘18)年度、このハードルの高い大賞部門を、小樽雪あかりの路実行委員会がみごと受賞されました！

更に、大賞部門受賞者でプレゼンテーションを行い選定される“グランプリ”も獲得され、日本一に輝きました！！北海道の団体がグランプリを獲得されるのは初めての快挙です！！！

この度の栄えある受賞を記念し、『小樽雪あかりの路』について御紹介することで、実行委員会の皆さんの２０年に渡る素晴らしい活動を、より多くの方々と一緒に称えたいと思います。

『小樽雪あかりの路』は、平成１１年('99年)の２月に始まりました。

小樽運河が現在の姿に整備された昭和６１年('86年)以降、小樽市は日本有数の観光都市へと急速に発展しました。しかしながら、当時の小樽観光は夏と比べ冬の観光客が少なく、通過型観光が主流で宿泊客数も延びず、地域への経済効果が十分に得られないことが課題でした。

そのため、小樽運河や旧国鉄手宮線跡地など、先人達が残してくれた歴史遺産である街並み景観を活用し、「冬季の夜の魅力づくりをしよう！」、「市内全体を会場として経済の活性化に繋げたい！」という想いから、毎年２月の１０日間、雪のオブジェとロウソクのイベントを開催することになりました。

美しいオブジェの一つ.。

豪雪地帯ならではの白く美しい雪でオブジェを作り、そこに灯すのはロウソクのあかりのみ。

運河には、小樽の伝統的な工芸品である漁業用のガラスの浮き玉を浮かべ、中にロウソクを灯します。

浮き玉キャンドルの浮かぶ小樽運河。

使うロウソクと浮き玉は、全て小樽産です。この「メイドインオタル」へのこだわりが郷土愛をはぐくみ、子供から学生、お年寄りまで多くの地域住民が参加するイベントへの発展に繋がったのでした。

小さい子供も
雪あかりに夢中。

メイドインオタルの
浮き玉キャンドル。

一方、ロウソクのあかりを使うには、相当な労力が必要です。毎日、一つ一つ人の手であかりを灯さなければなりませんし、風や雪などで消えてしまうため、見回って付け直すことも必要になります。

それはとても困難な作業となることから、イベント立ち上げ当初、電飾を使用するという意見が多数派でした。

でも、労力を掛けてでもあえてロウソクのあかりを選んだのは、初代事務局長の情熱があったからです。

「ロウソクの炎には、火を灯した人の想いや温もりを伝える力がある。心の豊かさ、温かさの伴ったイベントでなくては小樽に相応しくない。」と、いう熱い想いに皆が動かされたのでした。

イベント期間中の毎日、日が暮れる頃になるとボランティアが、多数の会場の一つ一つのロウソクに点灯して歩きます。指先がかじかむほどの寒さの中、風雪で消えたロウソクにも、ボランティアが一所懸命あかりを灯す光景を目にした観光客から「ごくろうさま」と声を掛けられ、人と人との触れ合いが生まれます。

これは、電飾では生まれえなかったであろう温かな繋がりであり、一般的な観光と『小樽雪あかりの路』の大きな違いです。

工夫を凝らしたオブジェの一つ。

多数参加する海外ボランティアの皆さん。

海外ボランティアとスタッフの
疲れを癒やすフェアウェルパーティー。

人と人との触れあいの場となっている『小樽雪あかりの路』の魅力は、数字となって表れてもいて、スタート時には約１８万人だった来場者数が、今では約５０万人もいらっしゃいます。ボランティアの数は、延べ２２０人だったのが、今では約１０倍の２，０００人！そのうち外国人のボランティアが延べ６００人もいらっしゃいます。

外国人ボランティアの方々は、イベントに参加するだけではなく、小樽の魅力を自発的に祖国で発信してくれたりもするため、国際的な観光ＰＲに一役買ってくれています。

そんな外国人ボランティアの方々のため、実行委員会では、イベント前にウェルカムパーティー、イベント後にもフェアウェルパーティー（送別会）を開催しています。

関係者とボランティアの交流や、ボランティア同士の交流もよりいっそう深まり、楽しそうです。

繰り返し参加してくれるボランティアが多いこともうなずけますね。

イベント開始当初のメイン会場は、小樽運河と手宮線跡地の２ヶ所でした。イベントの規模が広がるにつれて会場も増え、現在では、メイン会場３ヶ所(小樽運河・手宮線跡地・朝里川温泉)、準メイン会場２ヶ所(天狗山・小樽芸術村)があります。

また、町内会や商店街、企業や学校など市民ボランティアの造る「あかりの路会場」が、今では小樽中の４０ヶ所以上になり、市内全域がほのかで温かいあかりに溢れます。

手宮線会場での演出の一つ。

あかりの路会場の一つ
カトリック富岡教会。
ロマンスの生まれそうな
あかりのハート❤

「雪あかりの路」という名前は、作家　伊藤 整(いとうせい)の詩「雪夜」に由来します。
あかりの路会場の一つである伊藤 整ゆかりの地、
塩谷会場のオブジェ。
イベント期間に合わせて「文学ツーリズム」するのもいいかも！
「文学ツーリズム」は、小樽開発建設部のHPに掲載中↓
https://www.hkd.mlit.go.jp/ot/tiiki_sinkou/ad7hk900000000ds.html

あかりの路会場の一つ
さくら幼稚園。
園児たちが先生と一所懸命
造ったのかな？なんて考えると、
自然と顔がほころびます。

小樽開発建設部でも、毎年有志の職員がボランティアでオブジェを制作し、ささやかながら協力させていただいています。
平成29 (‘17)年度のオブジェはこちら、「北海道開発局マーク」。
今年度の『小樽雪あかりの路』は2月8日(金)～17日(日)まで催されます。
http://yukiakarinomichi.org/
当部の今回のオブジェは何になるのか、どうぞお楽しみに(^^♪

小樽雪あかりの路実行委員会が手づくり郷土賞の一般部門を受賞されたのは、平成１６(‘04)年度、開催６回目の年でした。

当時から、実行委員会のメンバーが市内各所へとオブジェ制作の指導をしている努力や、回を重ねる毎に参加する町内会等が増え地域コミュニティの創出を担っているという、優れた点などが評価されての選定でした。

それから14年を経て、大賞を受賞した今年度は、『小樽雪あかりの路』開催２０周年の節目の年。

前回受賞時からは、来場者数やボランティア数が増加し、特に海外ボランティアは、韓国人延べ約２８０人だったのが約５００人、中国人は参加されていなかったのが、延べ約１００人と人数だけではなく参加国も増えています。

また、来場者との交流を図るためのバックヤードツアーや、たくさんの会場に訪れていただけるように工夫したスタンプラリー、小樽自慢のお鮨やスイーツがお得に食べられるチケットと、小樽の地酒飲み比べやガラス細工作成などの体験ができるチケットとのセット販売、音楽コンサート等、関連企画も盛りだくさん！

近隣市町である札幌市とは『さっぽろ雪まつり』と共同ポスターの製作、余市町とは開催期間が重なるイベントである『余市ゆき物語』のオブジェ制作を実行委員が一緒に行うなど、その活動は本当に幅広く発展しています。

これほどの活動をされているのですから、この度の大賞受賞・グランプリ獲得は、実行委員会や多くのボランティアの方々の努力の賜物に他なりません。

後志にはたくさんの観光コンテンツや上質の食材が揃い、才能あふれる人材も豊富ですが、それらをどのように活用して歩んでいけばいいのか、わたし達地域住民にとっての道しるべは、この『小樽雪あかりの路』のような活動の中にこそ、あるのではないでしょうか。

先輩達の守ってきた歴史遺産を引き継ぎ、人と人との心の交流を大切にしている 『小樽雪あかりの路』のあかりは、未来への路を照らすあかり。

これからも、この愛情溢れる希望のあかりをよすがに、一歩ずつその先へ進んでいきましょう。

参考文献：第20回小樽雪あかりの路事業報告書、小樽雪あかりの路20周年記念誌、北海道新聞
写真提供：(一部を除き)小樽雪あかりの路実行委員会、小樽市役所
取材・文：小樽開発建設部　地域振興対策室